

大草谷津田いきものの里 自然観察会

ヤマユリ咲く谷津田

岡田敬子（千葉市）

日 時：2015年7月19日（日）10：30～12：00 天候： 晴れ

参加者：20名（大人18名、子ども2名）

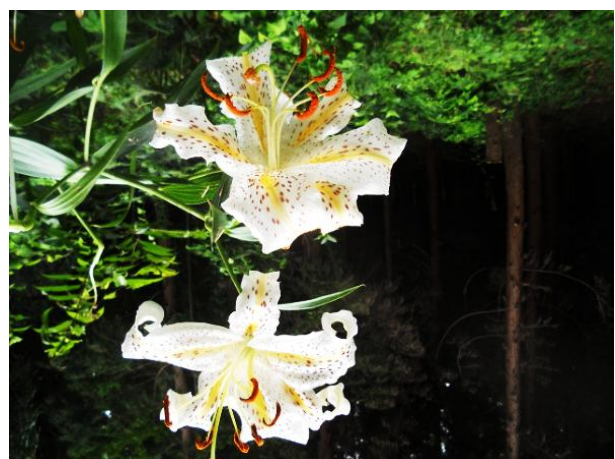
担当指導員：山岸文子・岡田敬子

朝から強い日差し、女性の方が「観察会はどこですか？」場所を聞いてもわかる人がいなくて「いきものの里」を通り過ぎたと汗を拭きながら来られた。市政だよりを見てテーマにひかれてと12人の年配の男性の来場。「ヤマユリ」は日本原産のユリの女王であること、ユリの語源、花が風に“ゆる”鱗茎が“より”重なる。ユリ根は食用の他、咳止め・解熱・滋養強壯の薬とされる。クイズ世界中の女の子の名前に一番多く使われている花は？日本では百合子、小百合、外国ではリリー、スーザン、スザンナ、クレオパトラなど……。次に持参したカワラナデシコの鉢植えを見ていただき、大草の谷津田では絶滅してしまったと話す。「ヤマユリ」を第二のカワラナデシコにはしてはならない。手入れがされずに暗くなった林が増え、自生地が狭くなっていることなど「いきものの里」と「ヤマユリ」の予習をして、観察路へ入る。

林床にヤブミョウガの白い花、マムシグサの赤い実が見える。分岐点の“めじろんば”を右に曲がる。ニイニイゼミの声を聞きながら坂道をゆっくりゆっくりと登る。視界が開けたところにヤマユリの自生地。本数が少ないが、一本の茎に数輪の花をつけて揺れていた。「子どもの頃に見たのと同じく綺麗だ」と懐かしんでおられた。少し先の下畑まで木漏れ日の道を進む。昨年大雪で折れた杉や竹が放置された林と下草刈が行なわれた明るい感じの林を見比べる。木陰のベンチで水休憩。割竹で作った垣根の“しがらみ”を右手に見て、そろそろと階段を降りる。林縁にヤマユリ、木々の緑、青々とした水田。色づき始めたウワミズザクラの実など谷津田風景を眺める。葉っぱの上ではカエルがお昼寝。「あっオニヤンマ！」「タマムシ！」と子どもの声。次回の観察テーマ「カッコいいぞ！オニヤンマ」を紹介して観察会を終えた。



カワラナデシコ



ヤマユリ